

いのちを後回しにしない政治を今、沖縄から。

みおのクローン便り

第1号 2015年8月17日

仲村 未央
沖縄県議会議員

幸せを呼ぶというクローンのように 多様に 多彩に しなやかに



生物多様性を守る

県議会で条例制定

史上初となる、奄美大島ほか県外からの土砂持ち込みを前提とした、辺野古新基地建設への埋立承認に対し、私たちはいま何をなすべきか。

なし崩しの環境破壊を

許さない沖縄県の立場をまず明確にし、手続きの中で骨抜きにされてきた「環境アセス」を事実上回復することで、「環境に影響を与えない土砂を調達する」と主張した事業者・沖縄防衛局に、具体的にその担保を求めねばなるまい。

県議会における、「公有水面埋立事業における埋立用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例」はその手続きを通じ世界に類のない本県の生物多様性を守る取り組みの一つとして提案したものだ＝写真は同条例についての記者会見のようす。

外来種侵入防止に義務付け

いかなる調査に基づき外来生物の有無、その付着・混入がないことを確認するのか。侵入があった場合、誰が責任を持って駆除するのか。事業者にはこれらを証明する、詳細な「届出」を義務づけ、知事には、行政指導や立入調査等の結果、生態系を脅かす外来生物侵入があると認めるときや正当な理由なく措置に応じないとき、「搬入の中止」や「使用の中止」を勧告できる権限を付した。

政府が「奄美・琉球」を世界自然遺産候補地に挙げて取り組む中、当該事業者は、まさに政府の一員として環境に対する使命と責任を放棄できない立場にあることを重ねて強調したい。

追伸

◆「沖縄の子どもの貧困を考えるシンポジウム」があります。沖縄市子ども施策研究会主催。

日時：8月23日(日)13:15～
場所：沖縄市民会館中ホール(入場無料)

お招きするのは、沖縄の子どもをとりまく課題に長く取り組まれてきた加藤彰彦先生(前沖縄大学学長)と、「子どもに貧困を押し付ける国・日本」の著者である山野良一先生(千葉淑徳短期大学教授)。日本6人に1人の子どもが貧困状況にあり、なかでも「ワーキング・プア率」全国一とされる沖縄県では、子どもの環境はいっそう深刻だと考えられます。

◆県内の小学6年生、関東の高校3年生が議会に来てくれました＝写真。安保法制に対し、各地で声をあげる人々の中に、若い世代の姿。頼もしく、希望も感じています。



憲法、自治、米軍基地問題、こどもの貧困、労働者の権利などのテーマで講演や勉強会も行っています。ご意見、お問合せがありましたら、どうぞご連絡ください。

電話：098-989-1638(みお事務所)、098-866-2702(沖縄県議会会派室)

Eメール：go@miomio.ne.jp

住所：〒904-0011 沖縄市照屋1-7-19(なかむらみお後援会事務所)

